

緒 言

紀要編集委員会

1990年代には教養課程大綱化という大きな大学改革があり、それから一連の大学改革のスクラップ・アンド・ビルドが継続してきた。尚綱学院大学も四年制大学化、男女共学化、総合人間科学系大学としての確立など、一連の大幅な改組を経験した。これらは大学制度が社会の要請を反映したものでなければならない、あるいは18歳人口の減少を見越す必要性、という大きな社会的要因によって矢継ぎ早になされてきたものである。しかしながら、ふと気づいてみれば、尚綱という私立学校のアイデンティティが、いつの間にか消滅しかかっているのではないかという危惧を覚えるまでに至った。

私立学校はその建学の精神によって立つものである。我が尚綱学院はまさにキリスト教こそが建学の精神であり、またわれらを導く理念でもある。キリスト教精神による教育が尚綱の根本的原理である。当委員会は再びそこに立ち返って自己の意義を確認することが必要であろうと考え、これまでに尚綱のキリスト教教育に深く関わり、心より尚綱学院を愛してこられた諸先生方に、執筆を依頼した。

ここに幸い6名の執筆者のご協力をいただき、各々の経験と識見から尚綱とキリスト教を論じていただくことができた。当委員会として、心よりなる感謝を表するものである。キリスト者であるなしを問わず、同じ理念のもとに今後の尚綱学院大学の教育を推進していく立場の者にとり、この特集の記事が我々に更なる使命の自覚を促し、教育の推進に資することを信ずるものである。

尚綱とキリスト教

学長 合 田 隆 史

尚綱とキリスト教について考えるとき、尚綱の歴史の中で重要な3つの時期に、尚綱がどのような道を選んだかを振り返っておくことは十分意味のあることだろう。その3つの時期とは、尚綱女学会として歩み始めた1892年頃、各種学校としての認可を得た1899年から高等女学校相当施設としての指定を受けた1910年頃、そして戦時下の1940年前後の時期である。その上で、尚綱のキリスト教主義教育の当面する現在と将来について考えてみたい。

1. 1892（明治25）年、尚綱創立の頃

尚綱学院は、1892（明治25）年8月（一説には9月）の創立とされており、今年で129年目を迎える。この校名は、本学関係者には周知のように、朱子によって儒教の代表的經典とされた四書の一つ『中庸』の一節「衣錦尚綱」から採られたものだが、そもそもなぜわざわざ儒教の經典から校名を採ったのだろうか。

当時、仙台では、1886年創立の仙台神学校（91年に東北学院と改称）、宮城女学校が活動を